
神の願い

りょう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神の願い

【著者名】

りょう

N68580

【あらすじ】

神に頼まれ異世界に来る事になった 神田 リサ（21歳）

何か偉い事になつた・・・殿下にはストーキングされるし、プロポーズ

されるし・・・赤ちゃんから過ごさないといけないし（泣）

私は、ただ農業がしたいだけなのに～～～～～～～～～！

地味！ 平凡！ バンザー！！！！

平凡とは、程遠い少女のお話です。

1話 神の悩み

全ての世界の創造主である 神 ネオ

彼が作った世界 ミレー

そこは、神がはじめて作った世界

今その世界が 滅ぼうとしていた。

理由は、マナの不足 マナは世界の全で

マナが無い世界は全てが滅ぶ

食物は無くなり 草木は枯れ 酸素は無くなり

死の世界になる

何度もと無く ネオは 王家に加護を『え 護つて來たが

それでも 時間稼ぎにしかならなかつた

そこでネオは 考えた。

第三惑星 地球 魔法が無い為 魔力が高く

マナの宝庫

地球上に住む人の中には 魔力が無限にあり 自然と魔力をマナに

変えられるものが居た

そう 神田 リサ

彼女は、魔力をマナに変えられる人であった。

そして、彼女の魂は・・・であつた

2話

私は、神田 リサ 21歳 農大に通う普通の学生

16歳のとき飛行機事故で両親が他界

両親には肉親が無く 私は親の残した多額の保険金と家そして貯金を切りつめながら

1人で生活してきた。

リサ「今日は、何の苗するかな～～～」

家の庭に作った 家庭菜園 私の楽園

リサ「う～～～ん・・・よし！－ ジヤガイモとイチゴとトマト」

なぜ？ この三つがって？ もちろん！セール商品だったからに

決まつてゐでじょつ（一ニヤニ）

「種3つで200円になりますね~」

「あらがとう御座いました。」

----- 帰り道 -----

「うちまでの帰り道

リサ「今日は、家に帰つて何するかな~~~。」

「と考へてみると田の前から暴走した車・・・

リサ「まじで？・・・」

「「は狭い路地　車　1台しか通れないよつな狭さ。

車に当たると思った瞬間

意識が無くなつた

3話 神との出会い

あれ～～～～～？

「何処だ？」

確か、大学の帰りに ホームセンターによつて・・・

あ！・・・ 車に 轉かれたんですね。

しかし「せは真つ白で何も無いな～～。

？？「そこの者 神田 リサで間違いないか？」

確かに私は 神田 リサだけじゃ。

？？「そうか、おぬしが 神田 リサか。」

なつ！ 何と！ 声出してないのに分かるとはビックリ。

神「神だからなそれぐらいはたやすい事だ。」

神？ つてことは ヤハリ私は車に轢かれて死んだのか。

神「死んでは おらんぞ。轢かれる直前に 私が ここに連れて來たからな。」

そうなのか。 それは有難う御座いました。

神「いいえ。 ところであなたに頼みたい事があるんだけど。」

頼みたい事ですか？

神「そう。 私が作つた世界に行つてほしいの・・・

他の世界ですか？何故？

神「私が作った世界 ミレーが今滅ぼうとしているの。もちろん私も色々やって来たのよ

王家の者達に加護を与えてそれを押さえたり。でも、ただの時間稼ぎにしかならなかつた

の。

何で滅ぶんですか？

神「滅ぶ理由は マナ の不足よ。」

マナですか？

神「マナとは惑星の源 マナが無くなれば 草木は枯れ 生き物は餓死し 酸素の無い

死の惑星になってしまつのだ。」

草木が枯れるとは！－！－大事！

でも私には 何の力も無いですが・・・

神「それは大丈夫じゃ！　お主が居つた世界は、魔法が無いのに魔力が強い者が多いのだ

その中でも　お主は特別でな、魔力が無限であり、なおかつ自然に魔力からマナに変えておる

。　不思議ではなかつたか？　　お主が植えて植物は、他のものが植えてのよりも大きく育ち

早く育つたであらう。」

確かに・・・

この前、季節外れのカボチャが生つた事が遭つた。

神「そうであるつ。　お主には、あちらの世界に生まれ変わつて貰いたいのじや。」

まあ・・・地球に帰つても1人だし　悲しむ人も居ないし。

良いですよ（一二二）

神「そうか！ 引き受けてくれるか。」

八一。

神「では、送るぞ！」

ふえ？

パカンン！

足元に穴が現れ

落ちた

いやああああああああああああああああ！

神「色々能力を付けておいたからな～～～」

能力？？落としてからいわないでよ～～～！！

「ひして リサは転生トリップさせられるのであった。

神「すまぬ・・・いつも お前に迷惑ばかりかけてしまつ。」

4話 生まれてみました。

あの神め！－！

いきなり、落とす事無いだらう。

ブツブツ・・・・

1時間後

ところでココ何処だ？

真つ暗で何も見えない。

それどころか、水の中に・・・まつー・まさかー！

赤ちゃんからやり直しですか！ しかも、羊水の中とか・・・ありえない（泣）

しかし、お腹の中は狭いわね。

ん？ 何か羊水の量が 減ってるような・・・ 気のせい？

5分後

気のせいじゃない~~~~~！

せま~~~~い！

もう、我慢の限界！ セット生まれてやるひじやなこの。

10分後

おひめちゃん おひめちゃん おひめちゃん (へいせき せんじわせん)

生まれてみたのは良いけど。

赤ちゃんってこんなに初めは見えないのね。

? ? 「やつと生まれたか～。パパだぞ～」

? ? 「あなた、似そつくりですね。」

パパ「いや。お前に似ていて美人だ。」

ママ「あなたに似たのよ。」

どうやらハーブな親らしい

??.「父上でも母上でもなく 僕に似たのです。」

マイ「あらへ。マイきたのですか。」

パパ「いへじ息子だからとこつて その発言は間違つてゐる。」

マイ「いえー！ 僕に似たのです！ 見てください。こんなに可愛く 賢そいで 魔力も多い！」

わすが俺の妹です！ 命にかけても絶対に譲ります！』

パパ「よく言ったー！」の子は私たちの宝だ『こんなに可愛いんだ
変なやからが近づいてくる

みんな排除するだー。』

マイ「やうやく父上。父上。」

もしかして、父と兄は・・・・・いえ何も言いません。

考えるだけで恐ろしいです。

はあ　＝ 3

5話

転生して5年が経ちました。

5年間思って出したくもありません・・・

何故つて？

当たり前じゃないですか！――

授乳とか オムツとか 捷問でした（泣）

でも100年で解つたことがあります。

びつめら家は、王族みたいです。

父 ヨシュアン・フレサンス 王族

曾祖父が王だつたらしい。

母 リリア・フレサンス

おつとり かなりの美女

兄 ユイリス。フレサンス

7歳上のシスコン兄

そして私

神田 リサ 改め リサ・フレサンス

5歳

白銀髪 の お皿皿パツチリ 美女

・・・あの神 今度あつたら 絞める 殺す

私は、普通 平凡 がいいんですよ（泣）

まあ・・・字が読めるのと、異常な記憶力ですかね

2歳から兄の教科書を読み漁り 父の書斎の書物を読み漁り

3歳今では 兄や父に頼み王宮図書室などから借りてきつてもうります。

父「リサちゃん～～～ん。」

「何ですか？お父様」

父「今から、魔力測定と特性を調べるから

」

魔力測定ですって、そんな話聞いてません。

「お父様・・・そんな話聞いてませんが。」

父「あれ？ 言ってなかつたか？」

「い・っ・て・ま・せ・ん！..!」（怒）

父「（焦）すまん！」

「とつあえずこきます」

父「そうか、行ってくれるか そしたら、準備して玄関に来てく
れ。」

こうして、魔力測定に行くことになった。

今日は 大事な子が生まれるとの連絡が来た。

父「子が生まれるので 今から家に帰るからな。」

弟子「なつ！ 駄目に決まってるじゃないですか！」

あなたは、ここのは責任者ですよ！」

そうなのだ。

俺はここのは責任者 王宮騎士団団長 本当はなりたくないなかつたけ
ど・・・

父「えへへへへへへ！ 俺いなくても大丈夫でしょう。」

弟子「あなた、自分の立場わかつてますか？」

父「わかってるつもりだけビ

」

弟子「わかつてません。」

わかつてゐけどな～。

本来 王族は役職には付かず 領地の管理などをしていればいい
しかし、俺は魔力は強く 剣の腕も強かつたため、このよひな
めんじくさることをしていいるのだ・・・

父「そろそろ行へからな。」

弟子「まつー まつて」

====シュン=====

<白毛>

マリア「あなた・・・」

父「大丈夫か？ 何かしてほしいことはないか？」

母「大丈夫です。 もう生まれそなので 外で待っていてください。

＝＝＝＝＝ 1 時間後 ＝＝＝＝

元気な女の子が生まれた。

父「なつ！ なんと可愛い！」

母「そうでしょう。あなたに似たのね」

イヤイヤ。お前だろ。

父「マリアに似たんだよ」

カツチャ

ユイ「何と可愛い。さすが僕の妹です。」

しかし、こんな可愛いと・・・いるない虫がたかってきますね。

「

父「そうだな。」

ユイ「何が何でも、僕が守ります。近づく虫（野郎）は、排除します。」

いいぞ！息子よ。

父「そうだな！2人で排除するぞー！」

こうして息子と一緒に団結するのであった。

娘が生まれた。

あまり泣かなく、手がかからない子・・・

リサは、生まられてすぐから私達の話してこむことが理解できている
みたいで、

とても頭が良いみたい。

母親としては、少し寂しいですわ。

・・・んにしても、うちの島子と曰那の会話を怪しげですわ。

父「ユイ・・・わかっているな。」

ゴイ「解つておつま。」

父「ほんに可愛い子なんだ、鬼畜で野蛮な男達から守らなくてはならない。」

手段は選んでられない！」

ゴイ「やつです。リカに近づく、すべての男を排除しなくては・・・」

・

いやいや、貴方達も男でしょう。

父「お前には、今までの倍の量の武術などを遣つてもいい。いいなー！」

ゴイ「解つておつま。父上ー。」

この子の今後が不憫でなりません……
どうしたら良いのか……

妹が生まれた。

生まれる前までは、そんなに妹に興味がなかった。

生まれて初めての体面の時、こんなにも可愛く美しい者があるのか
と思った。

正しく 天使 いや 女神 と言つていいくほどの美貌だった

父と僕とで守らなくては・・・

これから亡くなる。

力を付け、これからの方に備えなくては・・・

「まずは、警備について父上と話し合わなくては・・・」

そう思い、血潮を出て、父の書斎に向かった。

パソコン

父「はい。」

ユイ「父上、入ります」

父「どうした？ 何かあったか。」

ユイ「家の警備を強化について……やはり、父上もおえておいで
だったのですね。」

父の持つている物（屋敷の図面）を見れば、同じことを考えていた
のだろう。

父「そりやな、あそこまでの美貌だからな。」

やはり、僕の父だー考えることが同じだ。

それから2時間父と今後について話したのであった

馬車に乗つて向つ事になつた・・・

「向つへば、元へん？」

「お父様・・・」

父「なんだい？」

「どこに行くか 聞いてないんですけど。」

父「え？ 言わなかつたか？」

言つてないから聞いてるんだろ！

父「リサ。 そんなに、怖い顔しないで・・・」

「私、畑で野菜達とすゞす予定だつたのですよー。」

父「リサの畠大好きなのはじつでいるよ。ほんとにごめん。」

「もう良いですナビ、ゼーに向つていろのですか?」

父「王都にある。城に行く。」

「・・・城?」

父「そうだよー。本当なら協会で調べるんだけど・・・リサは一様王族だし。

それに可愛いから変なのに田を付けれないようだね」

・・・父と兄の激愛ぶりは知つてゐるけど、いい加減にしてほしい。

生まれてから 一度も 家から出してもらえてない。

父「それと、王様に会つてもいいから。」

また・・・なんで。

「はあ＝3 またなんでですか？」

父「王・・・まあ従兄弟何だけど、リサに会わせるとかねといんだよ。

どこで聞いたのか、リサが可愛くて美しくて賢くて完璧なのが耳にしたらしくて・・・

本当は連れて行きたくないんだけど、魔力測定をしないといけないのを餌にされて

仕方がないんだよ。」

「解りました。」

父「」めんな。」

「いいえ。お父様も頑張つていただいたみたいなので・・・」

父「リサ・・・」

こうして、王に会つてイベントまで発生したのであった。

大変な事になつた。

何が大変かって？

王都について、魔力測定することになった、良いが・・・

馬車を降り城の中を歩いていると、出会う人すべてが 固まる ほ
ほを染める 「・・・天使」など

と言い見つめてくるのだ。

確かに、白銀の髪 肌も白くなつたが・・・顔のパーツは元の自
分なはずで、平凡なはず・・・

(（本人は平凡と思つてゐるが、昔からファンクラブがあつたがみ

んな恐れ多いと近づいて

こないのだ（）

・・つん？ なんか聞こえたよつな・・・氣のせいか。

「父」やはり、家から出すんじやなかつた・・・

「お父様？」

父「何でもないよ。早く行こうか。」

「はー。」

11話 番外編 1 ある日の一日（今後の展開と闇つて来ます）（前書き）

11話 番外編 1 ある日の一日（今後の展開と闇つて来ます）

この世界に転生して3年経つた。

そして知った・・・甘いものが少ない。

例えば、ドライフルーツなどはあるが ケーキやクッキーがこの世界にはない。

砂糖はあるが、蜂蜜がない。

この世界に来て初めて後悔をした。

パンには、ドライフルーツを混ぜて焼いたものや、バターを塗つて食べるしか方法がないのだ。

「自分で、作るしかないのか（泣）」

私は昔から、料理と畠のことが大好きで仕方がない。

「まずは、材料から集めるしかないか・・・」

牛乳やバターはあるベーキングパウダーもある。

蜂蜜を採る事から初めてつつ、カカオを見つけるとな。

チョコは秘中需品だからな、ココアパウダーもないし、チラミスも作れないし。

蜂蜜のための巣箱を作らないとな・・・

こうして、巣箱作りがはじまったのだった。

番外2（前書き）

東北地震で親戚が被災して、安否確認などばたばたしていて、投稿が遅れました。

すいません。

取り合えず巣箱を森に設置して見た。

取り合えずこのまま待つしかないか・・・

蜂蜜が取れるようになるまで、イチゴ 生クリーム バニラエッセ
ンスをさがさないと・・・

「イチゴか・・・」

「そういえば、死ぬ前に種を買ってたっけ・・・」

「そういえば、生まれるときに何か持つて生まれてきたと、
お母様が言ってたけど。」

聞いてみるか。

「お母様、私が生まれたとき持っていたものを、見せてくれませんか？」

母「どうしたのですか？ 急に・・・」

「いえ。気になつたものですから。」

母「少し待つていなさい。」

○ ○ ○ ○ ○
5分後。 ○ ○ ○ ○

母「いやね」

！」

そこには、自分が買い集めていた種たちであつた。

母「何なのか、よくわからなかつたのですが。あなたが生まれたときに小さな布袋を

もって生まれてきたのです。きっと神様があなたの為に持たせて

てのだらうと思ひ

とつっていたのです。」

「お母様～～～！ ありがとうございます。これ使ってもいいですか？」

「母「あなたのですか？」

こうして種の入手に成功したのだつた。

番外3 展開速いかしら???

あれから3ヶ月経ちました。

イチゴ メロン カカオ 蜂蜜の採取

に成功した。

なぜこんなに早く進んだかつて？

あれは、種を植えた次の日のことだった

昨日植えた種に水をあげに、庭に出てみると そこには・・

綺麗な女の人気が立っていた。

「あ~~~~~、『パウルの庭なんですか』……」

？？？「あっ！　あなた様が」

「あ~~~~~？」

？？？「私、精霊王に使えておつます。ゴリアと申します。」

「ゴリアさんですね。よろしくお願ひします。」ペコニ

ゴリア「私し何かに頭を下げないでください。」

「でも、…………」

ゴリア「お願ひします。王に謝りてしまこます（泣）……」

「わかりました。・・・でもコリアさんは、何をしていたんですか？」

コリア「そうでしたわ！ 私し、精靈王様よりあなた様のお役にたつよつに言われて来ました。」

あれ？ 私 精靈王となんて知り合いじやないけどな～～？？？

「私知り合いじやないけど？」

コリア「間接的には、知り合いじやありません。あなた様の生まれて時より 王は、見守つて

おられました。 本来なら、王が来て契約をするはずだったのですが。まだ、その時では

ないので、私が來ました。」

「そりなのですか～・・・」

コリア「ところで、この庭は？」

「私が育てている、作物だよ。」ニッコリ

「…」

すべてのマナよ。
生命の息吹を・・・

ユリアがそう言つと、作物がグイグイ成長していきアツと云う間に食べれるまでに

成長した。

「・・・すゞこ……ありがとう」

「ココア「（）」んな喜んでくれるんなんて）」こののですわー」これからよひしくお願ひします。」

「シニル」、「アルマジロ」、「アリバウマ」

しかし、アッという間に材料採取が進むのだった。

14話 測定がなかなか進みません。

やつと王の間まで」された。

何が遭つたかって？

聞いてください。

泣きたくなりました。

＝＝＝＝＝ 30分前のこと ＝＝＝＝＝

「お父様・・・。城に勤めている人たちはお暇なのですか？」

父「暇ではないはずなんだけど・・・」

「では、なぜ皆様行く所いく所に、居るのでしょ?。」

父「リサ・・・。本氣で分からぬのかい？」

「？？？」

本氣でわからなことは、じうこひとじこひ。

父を見に来たと聞つ事ですか？

わつとわづですね。」

父「リサ、そりぢやないよ。」

「声に出しましたか？」

父「全てでござったよ。」

父「私を見に来たのではなく、リサを見に来たんだよ。」

「私ですか？ 私を見ても何も面白くはないですが・・・」

父「お前は、隠された姫や白銀の乙女や真珠姫 と言われてこるんだよ。」

今まで私達がお前を馬鹿な男どもから守つて来たからな。」

何ですか、隠された姫？白銀の乙女？真珠姫？

私は平凡が良いです。地味が良いです。目立ちたくないです。」

父「・・・あた、声にでっこいれるよ。」

「では、今回見た皆様はがっかりされたでしょうね。こんなに平凡な顔と思つて。」

父「本氣で思つていいのかい？」

「?/?/?ですが。なにか？」

父「・・・ソサエバお聞き。みんな見に来て何で固まつてこるのでと思つ?」

「私の顔が凡人過ぎて、引いているのかと。」

父「リサ、そうではないよ。お前は、自分が普通で凡人だと思つているかもしねないが

「そうではない。お前は美しい。頭もいい。みんなが固まっているのは、お前が

「可愛く美しいからだ。」

「私が美しいですか？」

父「親だからとかではないよ。これからいろんな事がある。リサ自分の姿を少しほ理解しなさ

い。」

「自分では、普通だと思うのですが・・・」

父「お前がそう思つているのは、分かつてゐるよ。でも、人から見たらお前は美しいのだよ。

今日ココに来て、いろんな者がお前の姿を見て求婚してくるだ
れづ。いろんな困難が

あると思ひ。その事について一応覚えておきなさい」

「はい。」

このよつた会話の後、口々に来た。

「お父様、お父様の言つていたこと、少しほ理解しました。」

父「理解してくれてか！」

「はい。こんな人が集まり固まっていますから。」

父「そうだな！」

「そして思つたのですー。」

父「思った？」

「はい。平凡、地味、が一番だと。」

父「そうか・・・」

父に心の声

お前が地味で平凡が言こととおつと、無理だと思つわ。

お前が思つてているよりお前は頭がよく、いろんなモノを発明した（作物料理などの事番外でまた書きます）そして、お前は美しく、王家で唯一の姫なのだ。

「早く測定して、屋敷に帰りましょう」「ニッコリ

父「そうだな」「ニッコリ

やつ言ひて王の間に入つていつたのであつたが・・・

このコサと父の微笑みを見た者達が、今日一日使い物にならなかつたといつ。

あるものは、

「天使だ・・・」と言ひ、「同じ」と回りじまいを見つめ

また、あるものは、

「女神だ、親衛隊を作りお守りしなくてわ。」

と動くのであった。

その3日後、城中のメイド、騎士、事務次官達によってリサ親衛隊
が出来るのであった。

その人数は、城に勤めている全てのモノであった。

その後、リサの兄により纏め上げられるのであるが、それはまたの
話で。。。。

15話 王妃の夜

そんなこんなで、やつと王の間に来ました。

父「ヨシュアン・フレサンスです。入ります。」

？？？「オウ。」

力チャ

そこには、父と同じぐらいの美形が座っていました。
この方が王なのかしら？

父「リサを連れて來たぞ。」

王「やうか」

父「リサこいつが、王で俺の従兄弟だ！」

父よ王に對してその態度はどうつかと思ひません。・

リサ「リサ・フレサンスです。よろしくお願ひいたします。」

王「レオナード・ハーツ・ミルレイドだ。いつからいつまでよしへんな。」

リサ「はーい。ところでお父様・・・王に向って今の態度は何ですか？」

父「いや～～～。昔ながらの付き合いのせこと言つか・・・何といふか。」

リサ「あ・と・う・や・ま・し・一・一・」

父「はーい・・・すみません。」

王「はははあ（笑）　お前がそんなになつていい姿を始めてみたぞ（笑）」

父「仕方がないだろ・・・お前にも娘が居れば、この気持ちが分かるんだ！」

王「残念だったな！　俺には息子しか居ないからな。」

王「リサよ。私とミシューアンは、幼馴染であり従兄弟なのだよ。昔からこんな感じだ
許してやってくれ。」

リサ「王がそいつのひでしたら……」

父「レオの言つ事は聞くのか……」

当たり前でしょーー！ 長いものには巻かれろですーー！
いくら転生したからって、中身は生糞の日本人ですからーー！

王「ミシューアンはどいつもいとして。リサはホントに美しいなー
ー。」

父「そうであるつーー頭もいこぞーーなんと言つたつて3歳ですでに、
上級魔法の書物をすべて
読み漁り、政治、農業、薬剤、などすべての本を4歳までに読
みきつて、既に自分のものに
しておつたからなーー！」

王「やうなのか？」

そう言つと王は私を見た。

くそ爺！ 後で憶えているよー。

父「・・・? ? ?」ぞわわあ

リサ「お父様が言つ通り、確かに読み漁りましたが・・・」

王「それはすごいなーー。」

リサ「しかし、すべて覚えているわけでは 有りませんので。」

実際は、一度読んだものは忘れないけどね
そんなこと教えてやる必要はないもんねえ

王「そうかーー。しかしながらーー・・・うーーん・・・」

父「? ? ?」

リサ「? ? ?」

何でしょう？ イキナリ悩みだしましたね。
何かろくなこと考えてない気がします・・・

ポン

王「そつか！ そしたらすべてが詣く行くな」

父「どうしたんだ??」
イキナリ悩みだしたりして。

王「いや～～～。良い事思いついてな！」

父「いいこと?」

王「リサを息子の婚約者にしよう!」

父・リサ「「はあ? ? ? ? ? ? ?

16話 今までの登場人物

リサ・フレサンス

五歳

王族で唯一の姫

魔力・無限

普通に生活しているだけで、マナを作り出している特殊な存在。
精霊に好かれる体质

一度読んだ書物は、一度と忘れない特殊な体质も持っている

容姿

白銀の髪 パツチリ二重の目が特徴的

肌は真っ白で極め細やか

美少女

性格

怒ると無表情になり有無を言わさない。

地味平凡を愛し、植物・作物・農業を愛して病まない。

父

ヨシュアン・フレサンス

36歳

王族で王の従兄弟であり幼馴染

今は、第一次軍の団長で一応偉いのだが、嫁ラブの無い存在

母

リリア・フレサンス

32歳

穏やかでオットリ天然

旦那と息子の奇怪な言動行動を穏やかに見つめている

兄

ユイリス・フレサンス

12歳

妹命のシスコン。

顔は、イケメンでリサとおなじ白銀の髪が特徴
魔法高等学校に入つており成績優秀・文武両道でファンクラブが存

在するぐらいモテる。

しかし、頭の中は妹を守る事しか考えておらず。

そのために剣術と魔法学校に入つたぐらい残念な子

王

レオナード・ハーツ・ミルレイド

36歳

父の従兄弟 兼 幼馴染

この国の王であり、リサと自分の息子を結婚させてリサを自分の娘にと考えている。

皇太子

ヒューバード・ハーツ・ミルレイド

12歳

レオナードの息子で皇太子

ユイリスと幼馴染であり、リサのストーカー？？

父親とタックを組んでリサを自分のものにと考えている。

17話 父対王の攻防戦

父、そんなの！！許すわけないだろ！！」

おお～～～！ 初めて父が役に立った！
その調子でがんばれ～～～！

玉 - えいじゅ

父、何でつて！！

父よ。・・・もう負けか？不甲斐ないよ。・・・

結婚なんかしなくて良い！」

何か・・・理不尽な事言つてるけど。

ふ
う

王「そんなの出来るわけないだろー！」

なつ～～～にい～～～！！！

父「いや！ 結婚なぞさせない！」

王「そりではなくしな・・・」

父「何だ！」

王「お前、一応王族だろ・・・少しばかりよ。」

父に空気を読めとか考えるとかは、無理だろう（・・・〇・）

王「よく考えてみる。リサは、王族でだつた一人の姫だぞ！しかも、この美貌

　　とこの頭の良さ！他の国がほつとくはずないだろ！！」

父「う」

王「他の国に嫁に行つて見ろ！」
滅多に会えないぞ！いいのか？？

父「いやだ~~~~~！~」

父押されていいぞ！ 頼むからがんばつて！

王「そうだろう。それならつひの息子に嫁げば何時でも会えるだ
る。」

王の心

もう少しで落とせるぞ！

息子と縁媚させ
リサちゃんにハハと呼んでもいいえる・・・・二二五

どう見てもリサちゃんは、あいつの好みのタイプ、デッ・ストライクだもんな~。

王「直ぐに決めなくてもいいぞ。
な。」
レオとリサの気持ちもあるから

父「ユイが何と言つか・・・」

王「レオとお前の所の息子とは幼馴染だ、大丈夫だろ！」

父「いや・・・リサの事になると話しが別だ・・・せつとお前の息子を・・・」

王「そんなになのか？」

父「ああ・・・。」

何だ？？」の会話。

私抜きで話が進んでるし・・・

私、結婚なんてするつもりないのに。

まあいいつか。

どうせ、するつもりないから。ドンだけ話しあっても意味ないのに。

・

放置しといて大丈夫だろ？。

放置してしまったリサであったが、この1時間後・・・後悔するのであった。

そしてこの勝負 王の勝ち！！

ヨシュアンは、一生リサにネチネチとこの時の事を言われるのであった。

1-8話 短いです。はじめながら

あれから、結構時間がたつた。

測定するだけなのに何でこんなに時間がかかるのかといつと・・・

父と王の話しが終わらないのだ。

その話してもうらない事だらけ！

いい加減飽きた。

「お父様・・・」

父「ん？？　どうした？」

「一体何時になれば 測定をするのですか？」

父「あ！・・・」

オイー！ 忘れてたのか？？ 忘れてたんだよな！

お・は・な・し しなきやだめですか・・・

ぞくつ

父「すつ・・・すまん。けして忘れてたんじゃないぞー！
だからな？ そのおはなしはやめてくれ・・・」

チツ

王「今なら息子が測定場にいるから、みんなで行くか！」

みんなで行くんですか？

何故か、ものすごく嫌な予感がするのは氣のせいですね。
これ以上私に嫌なことをさせるつもりなら、一生神様を呪いますよ。

父「そうだな。 お前の息子を好きになるとわ思えないがな。」

王「何を言ひ！ 絶対氣に入るー！」

父「まあ・・・会つてみればハッキリする。」

王「 そ、うだな・・・」

何か勝手なことを話しているけど 無視です。
そう、無視するのが一番です。

早く測定を終わらせて家に帰るのです。

そして、植物達 精霊達 と・・・うふふう

しかし、この望みは叶わないのであった。

しかも、これから起ころ出来事を考えると、今までの生活がどんなに幸せであったか思い知るのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6858o/>

神の願い

2011年7月24日12時11分発行